



### 3. 活動内容

#### ※ ユネスコスクールとしての取組

##### ① 3年 「加賀野菜のひみつを見つけよう」

加賀野菜の1つである、源助大根の栽培に取り組んでおられる松本さんにお話をうかがい、大根掘りを体験させていただいた。加賀野菜の概要を学習してあったので、松本さんに質問に答えていただく形でお話をうかがった。

大根の育ち方や、青首大根と源助大根の違い、なぜ源助大根の生産量が少ないか等を教えていただきながら、栽培が大変なものにあえて取り組む松本さんの思いに触れた。大根掘り体験では大きな大根を掘らせて頂き、収穫の喜びを味わうと共に、ここまで丹精込めて育てられた松本さんへの感謝や、日頃感じることの少ない農家の方の苦労などに思いをはせていた。

また、収穫させていただいた松本さんの大根と同じ時期に、子ども達も種まきをして大根栽培をしてきたので、自分たちの小さな大根との違いに驚き、どんな工夫をしていたのか、より真剣にお話を聞くことができた。



##### ② 4年 「伝統息づくまち金沢 ～金沢の偉人・伝統工芸・文化から～」

###### ○金沢の偉人から

あらかじめ調べていた人物について、ふるさと偉人館で詳しく知る活動をおこなった。他にも金沢のたくさんの偉人について館の方に積極的に質問する姿が見られた。

金沢の偉人が身近に感じた一日となった。また、堅畑先生をお招きして、「金沢の三文豪」をテーマに講義をして頂いた。三文豪の子ども向けの本をみんなで読んだ。

###### ○伝統工芸から

興味を持った伝統工芸でグループを組み、調べ活動をした。水引細工、金沢和傘、金沢仏壇などを調べ、壁新聞を作った。それを3年生に紹介する発表会に取り組んだ。

###### ○伝統文化から

金沢や日本の伝統文化について興味を持ったものを調べた。能、狂言、歌舞伎、華道などを調べることができた。その後、6年生を送る会で、狂言『柿山伏』を演じることに取り組んだ。全校児童に狂言のおもしろさを伝えることができた。



### ③5年 「みんなで生きる町・額」

○額校区のユニバーサルデザインやバリアフリーについて考えよう  
いしかわ総合スポーツセンター、バリアフリー体験住宅「ほっと安心の家」を見学し、最先端のバリアフリーとユニバーサルデザインにはどんなものがあるのか学んだ。車椅子体験も行い、動きの不便さを実感した。また、高齢者疑似体験では、高齢者疑似体験セットを装着し、日常の生活での動きを体験した。体験を通して、お年寄りに親切にする必要があることを実感したようである。

その後、額地区にある公共施設をグループ別に見学した。額校区が人々にとってより住みよい町になるにはどうすればよいか、一人一人が考え提案書を作った。まとめでは、そのことに関して自分達のグループはどう思うか、十分な点や不十分な点について考え、不十分な点についてはどう改善すればよいか、その対応策を考えた。学習を通して、バリアフリーのみならず、世の中の全ての人々が人間らしく、気持ちよく生きるためにユニバーサルデザイン化するということについて、知識を深め、考えることができた。



### ④6年 「金沢から世界の発展を考える」 —アートマイルで国際交流—

金沢を中心に自国の文化を調べたり他国の様子について知ったりすることを通して、より広い視野をもち、自らの世界を広げていくことを願って、アートマイルプロジェクトに参加した。単に自他の文化についての知識を増やすだけでなく、国の壁を越えて、様々な人たちとつながる楽しさを味わいたい。そして、世界の仲間とかかわり、相手を意識しながら自分の思いを伝え合うことで、自他のよさを感じ取れるようにしたいと考えた。

最初は「かなざわふるさと学習」の時間を活用し、百万石祭りや金沢に関連することを中心に日本文化について調べ、金沢や日本のよさを知った。次に、金沢星稜大の協力をいただき「世界が100人の村だったら」のワークショップに取り組み、日本人として世界の人々と親善を深めることの大切さを学んだ。そして、それまでの学習で学んだことを、英訳したり写真を活用したりしてまとめ、交流相手であるオーストラリア・ネパールの学校とテレビ会議やインターネット掲示板（フォーラム）を用いて伝えあった。さらに、交流で感じたことをもとに、世界に発信するメッセージを考え、そのメッセージをこめたテントアートを交流相手校と共同制作した。

何度も交流を重ねることを通して、日本と違う言語や文化（食べ物・習慣など）があることを知ったり、世界の仲間とつながることの楽しさを実感したりできた。アートマイルでの国際交流は子どもたちにとって、世界中の仲間とつながることの素晴らしさに気づく、貴重な経験となった。



### ※成果と課題

#### <成果>

各学年による総合的な学習では、額校区から金沢へ、そしてそれらを外国へと発信する活動につながってきた。それぞれの学年の発達段階に応じて、4年生の「伝統工芸新聞」、5年生の「提案書」など発信する相手を変え、「広める学習活動」を行うことができた。特に6学年では、英語学習を生かし、海外の同年代の子ども達と交流できたことが、大きな成果であった。今までは、関心を持っていなかった外国に広く目を向け、同じ人間としてつながりたいという思いを持ち、そのために難しい英語にチャレンジしたことは、子ども達の満足感につながった。動画を送り、その返事をもらい、と少しずつ交流を重ねてきた。子ども達は英語で自己紹介したり金沢の伝統文化をわかりやすく伝えようと練習を重ねたりして、自信を持ってふるさと金沢を発信することができた。

#### <課題>

外国との交流は、時差が大きな壁となったり、国によっては情報統制があり動画を送ること自体ができなかったりするなど、直接つながることが難しい面もあった。交流が直接的であればより身近に外国の友達をとらえることができたのではないかと感じた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）